

時 time is ...

6月10日は時の記念日です。「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と制定されました。天智天皇によって漏刻（水時計）が設置され、宮中に時がつけられるようになった日を記念日としたそうです。

そこで、今回は「時」をテーマにした本を集めてみました。

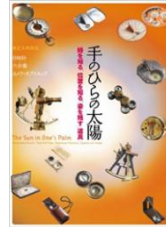
（『366日話題事典』高野尚好ほか編著 ぎょうせい 参照）



『一年は、なぜ年々速くなるのか?』

竹内 薫著
青春出版社
421夕
篠崎ほか所蔵

つい最近2017年を迎えたのに、もう半分が過ぎようとしている……と思うのは私だけではないはず。時の速さを嘆く前に「一年を速く感じなくなる」ことを目的に書かれた本書はいかがでしょうか。複数の仮説からタイトルの疑問に迫る、科学エッセイです。



『手のひらの太陽』

LIXIL出版
449テ
篠崎ほか所蔵

人類最古の科学装置といわれている日時計。時間だけでなく、夏至や冬至を知ることでもでき、暦としての機能も持っていました。本書は日時計の歴史や原理とともに、古今東西の携帯用日時計が写真付きで紹介されています。携帯用日時計が欲しくなる一冊です。



『パリマダムグレイヘアスタイル』

主婦の友社編
主婦の友社
595ハ
篠崎ほか所蔵

年を重ねても髪を染めず、そのままの髪色でお洒落を楽しむ女性たち。仕事や日々の生活、好きな装いなど、いきいきと語る姿は自然体で美しい。自分らしさを大切に生きる彼女たちは、時を味方につけそれぞれの輝きを放っている。



『時をこえる仏像』

飯泉 太子宗著
筑摩書房
J718イ
篠崎ほか所蔵

仏像の修復を生業とする著者。解体した仏像の胎内からは、仏師や修理に携わった人々の名を書いた木札や墨書きが出てきます。はるか昔の技術者の息づかいを感じ、仏像の傍らに生きた人々の思いを垣間見る、仏像修復師の仕事を紹介します。



『時間旅行は可能か?』

二間瀬 敏史著
筑摩書房
J421フ
篠崎ほか所蔵

タイムマシンの仕組みとは、どういうものなのでしょうか。時間や空間の概念とは？ 興味はあるけれど理解するのに敷居が高いと思っている方は、ぜひこの本にチャレンジしてみてください。理系に苦手意識のある方にも分かりやすく書いてあります。



『機械式時計大全』

本間 誠二監修
誠文堂新光社
535キ
篠崎ほか所蔵

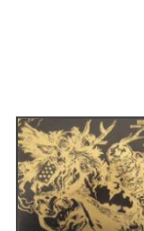
ゼンマイを動力として時を刻む機械式時計の構造や歴史について、カラー写真を用いてわかりやすくまとめた一冊。熟練の時計師により精密に組み上げられたムーブメントはため息が出るほど美しい（値段にも嘆息）。眺めているだけでも楽しめるので、リラックスした時間にゆっくりと見るのがオススメです。



『産業遺産』

日刊工業新聞編
日刊工業新聞
602サ
篠崎ほか所蔵

日本の近代化の足跡を今に伝える、工場施設や建造物、鉱山……それらを産業遺産と呼びます。背景には、かつて日本の産業革命に賭けた先人たちの奮励があるのです。全国の119の遺産を通して、豊かな暮らしを現代に残してくれた彼らに思いを馳せます。



『戦国自衛隊1549』

福井 晴敏著
角川書店
Fフ
篠崎ほか所蔵

ある実験により戦国時代にタイムスリップした自衛隊。彼らは歴史を変えようと画策し、それが現代にも影響を与え、世界が滅びようとしていた。世界を救うため結成されたロメロ隊は、彼らの暴走を止められるのか——。近代兵器が戦国の戦場を暴れまわる戦闘シーンは圧巻です。